

意見・要望の要旨	教育委員会の考え方
2 適正規模	
(1) 小規模校には弊害がある。適正配置を進めることにより、適正規模を確保してほしい。	各学校は与えられた環境・条件の中で最善を尽くしています。また、各学校にはそれぞれ良さがあり、過小規模校においては、人間関係を深めやすいなどの傾向がみられます。一方、互いに切磋琢磨しあうという集団生活の良さが活かされにくく、多様なものの見方・考え方にふれる機会が少なくなる傾向もあります。特に単学級においては、学級の編成替え（クラス替え）ができず人間関係が固定化し、問題が発生した場合、修復が難しくなりがちです。
(2) 小規模校の現状に満足している。それでも統合するのか。	こうした過小規模校の課題を解消し、教育活動をさらに充実するため、適正配置により、適正規模の確保を図ります。
(3) 少人数であることや校風、通学の安全面で光五小を選んで通学している。児童が少ないから統合するという考え方は納得できない。	学校教育は一定規模以上の集団の中で学び合うことを基本としています。学校規模と教育効果のかかわりについてはいろいろな見方がありますが、練馬区としては、児童生徒数が増えることによって、多様な考え方を持った人との出会いや交流の機会に恵まれ、学習活動や学校行事が活性化し、活動意欲がより高まると考えています。
(4) 小規模校よりも適正規模の学校の方が良い教育ができるという立証データはあるのか。	また、学校には規模の大小にかかわらず校務分掌があります。小規模校では教員が一人で何役もこなすことになり負担が増加します。そのため、児童生徒へのきめ細かな指導や校内研究・研修を行う時間が制約されます。学校規模を大きくすることで、教員の数においても、また資質の向上の面でもメリットがあると考えています。なお、国、東京都および他区においても、学校に適正な規模は必要であるという考えを持っています。

意見・要望の要旨	教育委員会の考え方
(5) うちの子が通っている学校は適正規模なのに、なぜ統合の対象になるのか。	適正規模を確保する方法の1つが学校の統合ですが、常に過小規模校同士が隣り合っているとは限りません。そこで、区全域の適正配置の指針となる適正配置基本方針（平成17年4月策定）の中で「統合の組み合わせ、学校の位置、学校施設の状況などから、適正規模を維持している学校も、統合の対象となる場合があります。」と定めたところです。
(6) 特別支援学級も、適正規模の学級数に含めて考えるべきだ。	特別支援学級は在籍児童数の関係から学年を超えて学級を編制しているのに対して、通常学級は学年ごとに学級を編制しています。学校の適正規模を定めた際、1学年あたりの学級数に着目したため、適正規模の学級数に特別支援学級は含めていません。
(7) 今の1学級あたり20～30人の規模がちょうどいいので、統合しないでほしい。	練馬区では東京都の学級編制基準（1学級あたり40人）を基に学級を編制しています。これは1学級の人数の上限を40人とするもので、実際には小学校の1学級あたりの人数は、平均32.5人（平成19年度）になっています。
(8) 統合を契機に、1学級あたりの人数（40人）を見直してほしい。	学級には生活集団と学習集団という側面があります。 まず、生活集団の面です。集団が小規模になると、集団の中でリーダーとフォロワーという役割が固定化してしまい、一人の人間の持つ多様な能力が発揮されにくくなります。
(9) 区に児童の医療費を無料にする予算があるなら、少人数学級を進めるべきだ。	また、固定的な少人数集団だけで過ごしていると、切磋琢磨の機会が少なくなります。 次に、学習集団の面です。児童生徒は、集団の中で自己の考えや学習結果を他者と比較したり取り入れたりすることによって、思考力や理解力を高めることができます。また、それをまとめたり発表したりする体験を通じて学習の定着度が高まります。こうした
(10) 区独自で40人学級を見直し、光が丘地区の学校を小規模校のモデル校とすることは考えていないのか。	

意見・要望の要旨	教育委員会の考え方
	<p>学習形態をとるためには、5～6人のグループが6組ほど編成できるだけの学級規模が必要となります。</p> <p>こうしたことから、1学級あたりの規模として、平均30数人となる現在の状態が好ましいと考えています。</p> <p>学習面において、より少人数での指導に効果が期待できる場合には、引き続き、教員の加配や学力向上支援講師の配置を行い、チームティーチングや少人数指導によって、指導の充実を図っていきます。</p>
(11) 近いうちに40人学級の見直しがあるのではないかと。練馬区でも少人数学級を取り入れるべきだ。	<p>国による40人学級の見直しは当面ないと判断しています。今後、学級編制基準の見直しが実施されたとしても、光が丘全体として児童数が減少傾向にあるため、施設面で問題は生じないと考えています。</p>
(12) 40人学級の見直しがあった場合、統合して教室が不足しないのか。	